科目ナン	バリン	グ U-I	U-LAS13 10007 LJ60										
授業科目 <英訳>		担調職者	担当者所属 職名・氏名		学研究 球環境等 学研究 学研究	学舎	教授 杉野目 道紀 教授 田中 一生 教授 中尾 佳亮 教授 大江 浩一						
群	自然科:	自然科学科目群 分野(分類) 化等					全(基礎)				使用言語 日本語		
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	1	授業形態 講		講義	薎(対面授業科目)			
開講年度・開講期	2025 •	前期	曜時限	₹2		配当:		主として	1回生	対象学:	生	理系向	

[授業の概要・目的]

理科系化学(工学部工業化学科1回生クラス指定授業)を対象とする。医薬品・農薬・香料・材料 等の有用物質を分子レベルで理解することを目的とし,それに必須な有機化学を系統的に学ぶ入口 として,本講義を開講する。

[到達目標]

分子の科学としての有機化学の基礎を修得し,有機化学の上級を学ぶ基盤を形成する。 個々の講義項目における理解目標は、「授業計画と内容」に記載した。

[授業計画と内容]

指定した教科書を用いて,下記項目1 - 7につき講義を行う。これにフィードバック授業を1回開講し,合計15回とする。

- 1. 講義の進め方に関する説明と有機化学の概観(1回)
- 2. 共有結合と分子の形(3回)(教科書第1章)原子の電子構造、共有結合、分子の極性、原子 価結合法と分子軌道法を用いた分子構造の記述、共鳴について理解する。
- 3. アルカンとシクロアルカン(2回)(教科書第2章)アルカンおよびシクロアルカンの構造、 立体配座、物理的性質について理解する。
- 4. 酸と塩基(2回)(教科書第4章)ブレンステッドローリーの酸・塩基、ルイスの酸・塩基、 酸解離定数とpKa、酸・塩基の相対的強さ、酸 - 塩基反応の平衡、反応座標図、分子構造と酸性の 関係について理解する。
- |5. アルケン:結合と性質(1回)(教科書第5章)アルケンの構造、立体異性、物理的性質につ |いて理解する。
- 6. 反応機構(1回)(教科書基礎知識I)基本的な有機反応の反応機構、およびその記述方法に ついて理解する。
- 7. アルケンの反応(4回)(教科書第6章)アルケンに対する求電子付加反応、酸化反応、還元 反応の具体例を学び、反応機構、反応の選択性、熱力学等について理解する。

[履修要件]

理工化学科の1回生はクラス指定の時間に受講すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点(出席と参加の状況、宿題とその取り組みの状況、合計20点)および期末試験(80点)により行う。

基礎有機化学 I (2)
村上正浩監訳 『ブラウン有機化学(上)』(東京化学同人)ISBN:978-4807907793(下巻の購入も
推奨する)
[参考書等]
(参考書)
Brown, Iverson, Anslyn, Foote 『Organic Chemistry』(Brooks/Cole Pub Co (8th Edition, 2017))ISBN: 978-1305580350(使用する教科書の英語版)
[授業外学修(予習・復習)等]
復習のための宿題を課して提出を求め、平常点の一部とする。
[その他(オフィスアワー等)]
[主要授業科目(学部・学科名)]